

## はじめに

1994年に、下関市立大学附属産業文化研究所と北九州大学附属産業社会研究所（当時）が「関門地域共同研究会」を組織して、関門地域の現状と課題に特化した調査研究活動を開始しました。爾来10有余年を経て「関門地域の経済・交流発展に資する」取り組みを途絶させることなく継続してきました。その成果を『関門地域研究』と題した定期刊行物として年々歳々刊行するとともに、公開型の成果報告会で披露して来場の皆様からご批評をいただいています。「関門地域論」を開講して学生に成果を還元することも、下関市立大学では行ってきました。ちなみに、この授業科目は市民の自由聴講が可能な科目のひとつでもあります。

「関門港」、「関門経済圏」、「環境」、「国際経済協力」、「金融」、「国際観光振興」、そして「ベンチャー創出・育成」と、そのテーマを展開してきた最初の10年を踏まえて、新たな10年を歩み始めて既に3ヵ年を経ようとしています。「新たな10年」に踏み出すにあたり、どのような思いを込めて「ソーシャル・キャピタル」をキー・ワードに据えた2ヵ年計画を策定したかにつきまして、本誌第15号の「はじめに」で触れておりますので、重ねて解説を加えることは控えます。今期の調査研究プロジェクトは、この2ヵ年計画の自己点検・評価の産物として企画され、運営されたものです。その点検・評価は2006年の夏明けに所長協議として始まり、回を重ねました。その結果として、関門地域共同研究の重要性と必要性を確認し合うことができました。ただし、中・長期のプランニングのもとに調査研究を遂行していくこと、成果を見定めた適確な人選と運営を図ること、遂行した調査研究に対する自己点検評価を十分に行って次期の企画を立てること、成果報告会も質疑討論の充実したものに改革することなどを重点化することになりました。この協議を受けて調査研究テーマの検討に入り、外部評価に耐えうる調査研究を単年度完結型で実施することとなり、今期テーマが選定されることになったのです。専門委員の構成は両学から3名づつ、合計6名態勢です。各2名の研究者に両市の企画政策部門の管理職各1名加えた編成で、論文執筆には研究者が当たっています。査研究の背景と目的ならびに本報告書の構成につきましては、序章を設けておりますのでご参照ください。

本年も多くの方々のご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

今後とも地元で学び、「海峡学」を構築することを使命と弁えて、関門地域すなわち「海峡都市圏」における地域連携の促進を図ることを研究目的として掲げ、当面している課題の有りようを明確にし、課題に取り組むための提言を行って参ります。ご注目ください。

本報告書に忌憚のないご意見をお寄せいただければ、誠に幸いです。なお、この度の成果報告会は年度改まりまして早々に開催する予定です。どうか会場にお運びくだり、多くの直言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2008年3月

2007年度「関門地域共同研究会」会長

(下関市立大学附属産業文化研究所所長)

道 盛 誠 一